# 創設３５周年記念祝賀会を終えて

友の会顧問　山田　敬三

「移情閣友の会」は 1984 年 12 月末、孫文記念館開館より、ほぼ二ヶ月遅れて創設された。結成の提唱者は須田勇先生（元・神戸大学長）だった。須田先生は医学者で大学では生理学を担当されていた。

1976 年に華僑総会から陳徳仁氏や林同春氏、石嘉成氏を通して孫中山記念館公開への協力を私どもの研究室に求められた時、山口一郎教授と私は、孫文も医者だったいう殺し文句を用意して兵庫県顧問であった須田先生の元を訪れた。だが、そんな野暮を言うまでもなく、先生は「孫中山記念館設立準備委員会委員長」を即座に了承された。

しかし、実際に開館するまでには運営資金の調達を含めて数年の準備期間が必要だった。最終的には移情閣を兵庫県へ寄贈することにして、まず建物が数千万円の県費で補修され、運営資金を保証する為、国道 2 号線沿いに有料の駐車場が整備された。運営の母体には財団法人孫中山記念会を結成し、初代会長には坂井時忠兵庫県知事が就任された。日常的な相談には当時副知事であった貝原俊民氏が応じてくださった。

記念館はもと華僑の豪商・呉錦堂氏の別邸であり、地元では「移情閣」の名で知られていた。呉氏の亡くなられた後、施設は「孫中山記念館」という名称で華僑関係者に管理されていたが、それでは日本人に通じにくいので孫文記念館への改称を設立数年後に私から提案した。かつて中国では本名で人を呼ぶのは失礼だという通念があり、公的には号を使用していたが、日本の高校教科書では「孫文」としか表記されていなかったからである。「移情閣（孫中山記念館）友の会」という命名は、そうした地域性を重視した結果である。

こうして「友の会」は発足し、初代会長には須田先生が就任、私が副会長として実務を担当することにした。ただし記念館にも「友の会」にもまだ事務局がなく、中学校教員を退職したばかりの義兄（戸田徹）と松竹支配人を退職されていた小谷義重氏に記念館の事務を依頼した。また、記念館の公開を新聞記事で知った東舞子小学校 PTA の事前参観申込があり、その役員として来られた河合さん、島田さん、喜多村さんに記念館の事務局員を依頼、同時に「友の会」の業務もお願いした。

創立より 35 年、事情があって「友の会」の事務局専任者はいなくなったが、企画運営委員長の後藤さんをはじめ、皆さん方のボランティアで、今も「友の会」がこうして健在であることを心から嬉しく思っている。